

盛岡構想区域における地域医療構想に係る具体的対応方針 集計（病院） ※令和6年度調査

議題(1) 資料1-2

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能						診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性
			許可	最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院			
1	岩手医科大学 附属病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	932	907	882	0	0	25	907	—	内、消内、肝内、糖・代、循内、内分泌、腎内、呼内、心療、アレ、血・腫、神内、老内、外、消外、肝外、乳外、小外、気管食道外、脳外、呼外、心外、整形、リハ、リウ、形成、頭頸部外、美外、産婦、小児、耳鼻咽、眼、皮、泌、放診、放治、麻、精、児精、救急、臨床検査、病理、緩和、歯、矯正、小歯、歯外 ・特定機能病院であり、岩手県高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター等の機能を有しており、「高度急性期病床」を中心としている。 ・5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）に対応する診療科を備えているほか、都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を担っている。 ・5事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児（救急）医療）については、高度救命救急センター、災害拠点病院、総合周産期母子医療センターの指定を県より受け、活動している。 ・中核病院として地域の医療機関と連携パスを共有し、がん治療に関する連携体制を取っている（がん治療連携計画策定料）他、感染防止対策における他医療機関とのカンファレンス等、多方面の地域連携の取り組みを実施している。	・岩手県唯一の特定機能病院等として高度急性期、急性期病院の役割・機能を担い、人口減少や物価高騰など厳しい状況下と限られた医療資源の中で今後も当該機能を維持していくため、地域の他医療機関との連携を強化し一体となって効率的な病床運用を行うことが必要となることから、集中治療室系病棟の再編や一般病棟の適正化、運用の再構築等により、国の医療政策に沿った持続可能な診療体制の整備を行うこと。 ・岩手県高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター等、岩手県の医療体制の拠点として、人材の育成、施設整備、医療提供体制を維持すること。
			2025 (R7) 見込			882	0	0	25	907	0		
2	内丸メディカルセンター	／	2024 (R6) 調査	50	39	0	50	0	0	50	—	内、消内、肝内、糖・内、循内、内分泌、腎内、呼内、血・腫、心療、アレ、神内、老内、外、消外、肝外、乳外、気管外、脳外、整、リハ、リウ、婦人、耳鼻、眼、皮、泌、臨検、歯科、矯正、小歯、歯科口腔 ・外来は、岩手医科大学の附属センターとしての特性を生かし、専門科による迅速な検査・診断を行う高度な外来機能を持った医療機関。また、患者を総合的に診るプライマリケアにも力を入れている。 ・入院は、日帰りや短期入院、短期滞在手術などを中心に行っている。	・外来は、専門科による迅速な検査・診断を行う高度外来機能を継続し、地域医療の拠点としての役割を担っていきたい。また、プライマリケアの充実を図り、総合診療医の育成にも寄与する。 ・睡眠医療センター、肥満症外科治療センター、臨床免疫センター等、複数専門科による横断的な治療により、生活習慣病などにも対応していく。 ・外来から在宅までの切れ目のない医療提供ができるよう、訪問看護にも力を入れていく。 ・入院は、日帰りや短期入院を継続し、地域包括ケア、回復期等を担う病床についても検討する。
			2025 (R7) 見込			0	50	0	0	50	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能						診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性
			許可	最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院			
3	岩手県立中央病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	685	526	307	219	0	0	526	—	<p>内、血内、腎・リウ、糖・内、消内、消外、外、乳・内分外、放、麻、精、呼内、循内、小、心外、整形、形成、脳外、皮、泌、産、婦、眼、耳、呼外、小外、脳内、リハ、歯口腔外、病理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立病院のセンター病院として、全県を対象とした救急医療や高度・専門医療等の高度急性期医療を中心に提供 ・ 地域がん診療連携拠点病院として、専門的ながん医療、緩和ケアを提供 ・ 地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療の提供、地域の医療従事者に対する研修会の実施 ・ 地域周産期母子医療センターとして、比較的高度な周産期医療を提供 ・ 医師の不足する地域への診療応援などを実施 ・ 臨床研修病院として、臨床研修医（医科・歯科）及び新専門医制度の専攻医を受入れ ・ 地域災害拠点病院として、DMATの派遣や被災地の重症傷病者を受入れ ・ 県内4カ所目の救命救急センターとして、地域における救急医療を提供 	<p>【基本方向】 引き続き、県立病院全体のセンター病院としての機能を担い、全県を対象とした救急医療や高度・専門医療等、高度急性期医療を提供</p> <p>【主な役割・機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療支援病院として、紹介患者の積極的な受入れ、地域の医療従事者に対する研修の開催など、かかりつけ医等への支援・連携を強化 ・ 医師の不足する地域への診療応援など、地域医療支援を強化 ・ 臨床研修病院及び専門研修における基幹施設として、臨床研修医及び専攻医を受入れ ・ 地域がん診療連携拠点病院として、高度・専門的ながん医療及び緩和ケアを提供 ・ 心血管疾患医療圏（盛岡）において、専門的な心血管疾患医療を提供 ・ 地域周産期母子医療センターとして、周産期にかかる比較的高度な医療を提供 ・ 小児地域医療センターとして、小児専門医療を提供するとともに、入院小児救急医療における輪番病院として、小児救急医療を提供 ・ 救命救急センターとして、三次救急医療及び地域における救急医療を提供 ・ 地域災害拠点病院として、災害発生時の災害派遣医療チームの派遣や被災地内の重篤救急患者の受入れを実施 ・ へき地医療拠点病院として、へき地診療所への医師派遣等の支援を実施 ・ 流行初期医療確保措置協定締結医療機関として、新興感染症に係る入院医療等を提供
			2025 (R7) 見込			319	248	0	0	567	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能						診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性	
			許可	最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院				
4	盛岡赤十字病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	346	232	0	324	0	22	346	—	内、血内、精、 脳内、呼内、消 内、循内、小、 外、小外、消 外、緩和、整 形、脳外、皮、 泌、産婦、眼、 耳、放、麻、リ ハ、病理	・基幹災害拠点病院として、東日本大震災と平成28年台風10号災害で傷病者を受入れるとともに、被災地に救護班を派遣し診療にあたった。また近年では、平成30年北海道胆振東部地震と平成元年台風19号災害（宮城県）にDMATを派遣し、令和6年能登半島地震においては救護班5班、コーディネーターチーム2班を派遣した。 ・地域医療支援病院として、医療機関や介護・福祉施設等と連携し、紹介患者や救急患者の受入れに務めている。 ・地域周産期医療センターとして、比較的高度な周産期医療を必要とする患者を受入れている。 ・臨床研修指定病院として、医師の育成に務めている。 ・第一種及び第二種協定指定医療機関として医療措置協定を締結しており、新興感染症の発生・まん延時の医療提供体制の整備を行っている。 ・令和5年度は2173件の救急車を受入れた。がん診療では、2023年は835件がん登録をした。	当院は、今後も「急性期」を継続する予定です。 2020年10月に病床数を40床削減し、2024年2月に休床病床44床の削減を行った。
			2025 (R7) 見込			0	324	0	22	346	0			
5	盛岡市立病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	180	127	0	127	0	0	127	—	内、脳内、呼、 消、循、糖・代、 腎、外、整、脳 外、皮、泌、眼、 放、麻、精、齒	・少子高齢化社会の医療に対応するため、病床区分の考え方を「高度急性期・地域包括期・慢性期（日本慢性期医療協会会長武久洋三氏提唱）」という分類の中で、当院は地域包括期である亜急性期～回復期を担い、地域包括ケアシステムを推進している。 ・さらに、医大移転後の初期救急の受入れの充実とともに、身体合併症のある精神神経症等患者を積極的に受入れている。 ・感染症指定医療機関として、支援病院や岩手県の支援を受け、新型コロナウイルス感染症に積極的に対応している。	・高度急性期を担う大規模病院が対応しきれない、地域に密着した生活支援型の医療を引き続き提供する。 ・医師会や他の医療機関と連携し、初期及び二次救急病院として、積極的に救急医療を提供する。 ・感染症病床を有する病院として、新型コロナウイルス感染症を含めた感染症医療を提供する。 ・政策医療として、認知症のほか、身体合併症を有する精神疾患患者を受け入れていく。 ・医師（研修医を含む）や医療技術者等の研修・養成支援を通じた人材育成を行いながら、医療の質を高め、良質な医療を提供する。
			2025 (R7) 見込			0	127	0	0	127	0			

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能						診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性
			許可	最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院			
6	栃内病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	90	90	0	90	0	0	90	—	内、外、整外、 脳外、形、リハ、 麻 ・ 標榜診療科の中でも、整形外科領域の急性期医療に特化した医療機関であり、手術件数は年間約1,200件である。 ・ 救急告示病院、二次救急医療機関として圏域内を中心に救急患者を受入れている。 ・ 日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本手外科学会研修施設の認定施設、また岩手医科大学整形外科学講座臨床実習病院となっており高度臨床実習に係る学生を受入れ指導を行っている。 ・ 新専門医制度研修連携施設であり医師の育成にも寄与する予定である。	●地域において担うべき役割として、現病院の機能を継続することを中心に以下の役割を担う。 ①救急告示病院並びに二次救急病院を継続していくことの役割 ②整形外科領域の急性期病院としての役割 ③圏域の医療機関並びに介護・福祉関係機関との連携を推進し、1.5～2次患者を受入れる役割。 上記の役割を追求していくためにも、令和5年度に病院移転新築を行い設備の充実を図った。引き続き医師、看護師等人材の確保・育成に注力していく。 今後も地域医療構想を踏まえながら医療体制を検討していく。
			2025 (R7) 見込			0	90	0	0	90	0		
7	赤坂病院	／	2024 (R6) 調査	20	20	0	20	0	0	20	—	泌、皮、内、消 内、歯 ・ 泌尿器科を中心に皮膚科、内科、消化器内科の診療を行っている。 ・ 来てよかったと思われる病院を目指している。 ・ 特にも泌尿器科では専門医療として、医大、県中央病院等からの患者の受入も行っている。	2025年度中に病院から有床診療所（19床）に変更予定（協議済み）
			2025 (R7) 見込			0	19	0	0	19	0		
8	盛岡医療生活協同 組合川久保病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	120	120	0	60	60	0	120	—	内、小、リハ、 整、歯、小歯、 歯科口腔 ・ 二次救急病院の当番病院の役割を担っている。年間400件程度の救急車搬送を受け入れている ・ 在宅療養支援病院として、訪問診療をおこなっている ・ 協力型臨床研修病院として、研修を受け入れている ・ 無料低額診療実施医療機関として、生計困難者の診療を受け入れている ・ 急性期医療から慢性期医療、地域・介護をつなぐ役割を担っている ・ リハビリを含めた適切な医療を提供し、社会・在宅復帰に向けた様々な支援をおこなっている	・ 二次救急病院の維持 ・ 回復期機能（地域包括ケア病床）を担う ・ 在宅医療の拡大 ・ 医療生協の病院として、生活と健康をまもる健康推進病院として、健康づくりへの取り組みを広めていく
			2025 (R7) 見込			0	60	60	0	120	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能						診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性
			許可	最大使用病床	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	介護医療院			
9	東八幡平病院	救急告示 ／ 救急告示	2024 (R6) 調査	150	143	0	47	96	0	143	—	脳・内・消内・小・外・整・皮・放・リハ・歯・神内・呼内・膠内 ・脳血管疾患や運動器疾患等の治療を行うとともに、各診療科の連携の下に地域リハビリテーション活動を推進する。 ・地域医療を主体として総合診療科や消化器（内視鏡）内科、リウマチ膠原病内科等の専門外来を行い、地域住民の安心安全を守る。 ・地域住民の「かかりつけ医」としての役割。	・一般病床並びに回復期病床を中心に、一次・二次医療を担いつつ、関連機関との相互連携を大切に、地域包括ケアシステムの山間地域モデルを目指す。 ・地域包括ケアシステム構築への支援体制を担いつつ、少子高齢化そして人口減少する地域における街づくりへの一端を担いたいと考えている。
			2025 (R7) 見込			0	47	96	0	143	0		
10	八角病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	50	50	0	30	20	0	50	—	内、胃内、消内、肝内、内視内、糖代内、外、脳外、整外 ・総合内科専門医、消化器病の専門医を中心に地域のかかりつけ医として幅広い疾患を診療し、また50床の病床を高い稼働率で運用し、地域包括ケアシステムの構築を進めている。 ・盛岡北部圏域を中心に、二次救急医療機関として、365日24時間体制で救急患者を受け入れている。 ・消化器内視鏡専門医による内視鏡検査を積極的に行い、人間ドッグや企業健診、特定健診等の実施により病気の予防、及び早期発見に取り組んでいる。 ・肝疾患診療専門医療機関として、肝炎に対する治療や肝がんの早期発見、肝硬変の管理など肝疾患の診療を実施している。 ・基幹病院からのがん患者の受け入れ、緩和ケアを実施している。 ・在宅療養支援病院として、訪問診療を行い、緊急時の連絡体制及び往診体制をとっている。 ・透析患者の入院・外来診療を行っている。	・引き続き、総合内科として地域のかかりつけ医としての診療、及び二次救急医療機関として盛岡北部圏域を中心に、365日24時間体制で救急患者の受け入れを実施。 ・亜急性期機能を中心としつつ、在宅復帰に向けたリハビリや回復期機能（地域包括ケア病床）を担う。 ・在宅医療を充実させ、地域医療を担う。 ・保健予防活動（人間ドッグ・企業健診等）を強化し、病気の早期発見、早期治療につなげていく。
			2025 (R7) 見込			0	30	20	0	50	0		
11	栃内第二病院	救急告示 ／ 救急告示	2024 (R6) 調査	144	138	0	44	100	0	144	—	内、神内、外、整形、脳外、リハ、麻、リウ、歯、歯外、呼吸器・アレルギー-膠原病内科 ・岩手県保健医療計画に基づき二次保健医療圏として地域医療を基礎としながら主に脳血管疾患と運動器疾患の回復期機能（回復期リハビリテーション病棟）を担う。 ・救急告示病院として地域の救急医療の一翼を担っている。	・岩手県保健医療計画に基づき二次保健医療圏として地域医療を基礎としながら主に脳血管疾患と運動器疾患の回復期機能（回復期リハビリテーション病棟）を担う。新たに回復期機能（地域包括ケア病床）追加し担う。 ・救急告示病院として地域の救急医療の一翼を担う。 ・歯科、歯科口腔外科、（障がい者歯科）の開設に伴い、口腔ケアの推進、脳卒中発症後の口腔機能の回復、誤嚥性肺炎の予防に向けた専門的な口腔ケアなど、患者の予後の改善等を図る為、医科と歯科の連携による取り組みを行う。
			2025 (R7) 見込			0	44	100	0	144	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能						診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性
			許可	最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院			
12	一般財団法人岩手 済生医会 中津川 病院		2024 (R6) 調査	51	51	0	24	27	0	51	—	内・呼内・循内・ リハ ・地域包括ケア病床を有する機能強化型在宅療養支援病院であり、盛岡市街地北東に位置する数少ない有床病院として、地域包括ケアシステムの構築の実現に寄与している。 ・高度急性期病院で治療が行われた患者を転院で受け入れ、リハビリテーションを提供しつつ、家族やケアマネージャー（介護支援専門員）と協力して療養環境の整備を行い、在宅復帰支援を積極的に行っている。 ・地域の無床診療所における軽症から中等症の入院治療適応患者を積極的に受け入れ、地域における病診連携を推進している。 ・病院内に訪問看護ステーションを開設し連携することで、医療度の高い患者の在宅療養から在宅看取りまで対応している。	・地域包括ケアシステム構築と病診連携のさらなる推進。 ・訪問診療による在宅療養支援と訪問看護ステーションの拡充。 ・厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスガイドライン」に沿った看取りの提供。
			2025 (R7) 見込			0	24	27	0	51	0		
13	南昌病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	180	180	0	42	60	78	180	—	内、脳内、循内、外、整形、 脳外、リハ ・早期在宅復帰のため、回復期リハビリテーションに積極的に取り組んでいる。 ・地域包括ケア病床を有し、ポストアキュート、サブアキュートの受け入れ、在宅復帰や生活機能回復を支援している。 ・療養病棟では、継続治療を必要とする患者や神経難病等の治療を提供している。 ・盛岡南部地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受け、高齢者の介護予防等に関する研修、啓発活動等に努めている。	・現在の病床機能別の病床数は、2022年6月に急性期機能（急性期一般病棟）1床減床して18床に、回復期機能（地域包括ケア病床）を1床増床して24床としたものである。 ・回復期の医療機能をより一層推進し、リハビリテーションによる在宅復帰機能を強化していく。 ・医療、介護、福祉との連携強化を図り、必要とされる医療機能の整備に努める。 ・地域と連携・協働し、在宅患者への支援を行っていく。 ・リハビリテーションの医療資源を活用し、研修・啓発活動など医療技術者の育成を行う。 ・入院患者の利用状況に応じた病床再編の一貫として、地域包括ケア病床の増床並びに地域で必要とされる療養病床機能及び病床数について検討していく。
			2025 (R7) 見込			0	42	60	78	180	0		
14	独立行政法人国立 病院機構盛岡医療 センター	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	250	224	0	55	51	131	237	—	内、呼内、脳内、循内、消内、アレ、リウ、小、外、整外、 泌内、脳外、リハ、放、麻、齒 ・呼吸器・循環器系疾患、骨・運動器疾患の急性期から回復期までの医療機能を担っている。 ・神経難病、結核、免疫異常（リウマチ・膠原病）の政策医療を担っている。 ・岩手県アレルギー疾患医療拠点病院	・呼吸器・循環器系疾患、骨・運動器疾患の急性期から回復期までの医療機能提供を維持。 ・重度心身障害児（者）の慢性期医療、小児専門医療、盛岡医療圏における小児救急医療の急性期医療を実施。 ・岩手県アレルギー疾患医療拠点病院として診療、情報提供、人材育成、研究、学校等への助言、支援の実施。
			2025 (R7) 見込			0	55	51	131	237	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能					診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性	
			許可	最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院
15	医療法人社団松誠 会滝沢中央病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	86	86	0	0	40	46	86	内、外、婦、皮、 呼内、循内、糖 内、内視、総 診、乳外、アレ、 リハ、整外	・高度急性期病院からのポストアキュート機能 ・地域住民や介護施設等からのサブアキュート機能 ・医療必要度が高い長期療養患者の受入れを行っている。 ・退院後、自法人ならびにグループ法人介護保険施設への入所など医療から介護の連携調整を行っている。	・地域密着の病院として、回復期及び慢性期医療を提供。 ・介護事業所との連携を密にして、高齢化社会における在宅および施設での生活のバックアップを行う。
			2025 (R7) 見込			0	0	40	46	86			
16	社団医療法人盛岡 つなぎ温泉病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	170	168	0	50	48	72	170	内、呼内、アレ、 消内、循内、脳 内、糖内、外、 整外、脳外、リ ハ	・二次救急医療輪番病院としての役割を担っている ・専門的な呼吸器病治療(人工呼吸器40台以上常時稼働) ・リハビリテーションを365日実施 ・盛岡圏域新型インフルエンザ等医療体制における協力病院であり、岩手県在宅難病患者一時入院医療機関 ・協力型臨床研修病院として地域医療研修を実施し、初期臨床研修医を受入れ ・在宅療養支援病院として、在宅医療を24時間体制でサポートし、終末期ケアを実施	・急性期医療を中心としつつ、回復期機能・療養機能・在宅機能を担い、入院から在宅まで一貫とした、患者ニーズに沿った安心できる医療を提供する。 ・呼吸不全等による酸素療法・人工呼吸器管理・呼吸器リハビリを必要とする呼吸器疾患の総合的医療を各専門部門とチーム医療で専門的な呼吸器病治療を行う。 ・365日体制で質の高いリハビリを提供し早期の社会復帰・在宅復帰を支援する。
			2025 (R7) 見込			0	50	48	72	170			
17	医療法人友愛会 盛岡友愛病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	386	330	0	90	196	78	364	内、呼内、消内、 循内、脳内、心 内、肝内、外、呼 外、乳外、心外、 消外、肛外、緩和 ケア外科、整形、 形成、アレ、リウ、 泌、眼、耳、婦、 小、皮、リハ、放、 麻、歯、矯正、小 歯	・急性期・回復期リハビリテーション・慢性期(障害者)・緩和ケア・地域包括ケア病棟に透析センター、健診センターを併設し、疾病予防から終末期までを包括する。 ・高度急性期・急性期病院・地域のクリニックからの患者を受け入れ、治療・リハビリテーションを通じて在宅復帰を支援する。	・透析センターと回復期リハビリテーション病棟(147床)を有する圏域唯一の病院として、受け入れの強化と診療の質向上を図る。 ・脳卒中・循環器病対策基本法に基づいた健診・リハビリテーション・緩和ケアなどを推進する。 ・直近で病棟の再編成を行い、一般病棟の減床、地域包括ケア病棟増床を実施。今後は休床中の病床を稼働させ、地域包括ケア病棟最大60床での稼働を目指し、サブアキュート機能を強化する。
			2025 (R7) 見込			0	90	207	78	375			
18	医療法人青樹会内 丸病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	90	90	0	31	29	30	90	内、消内、循 内、外、整形、リ ハ	・急性期一般病床、地域包括ケア病床、療養病床を有しており、軽度急性期から回復期、慢性期まで対応している。 ・訪問診療を実施しており訪問看護ステーションを併設。 ・介護老人保健施設、特別養護老人ホームの協力病院である。 ・救急告示病院である。	・在宅部門により力を入れ、引き続き在宅復帰を支援するポスト&サブアキュートを担う役割を継続していく。 ・医療・介護連携を基に訪問診療及び訪問看護を拡充し、患者様が安心して在宅や施設での療養を継続できるよう体制を整える。
			2025 (R7) 見込			0	31	29	30	90			

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能					診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性	
			許可	最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院
19	社団医療法人啓愛 会 孝仁病院		2024 (R6) 調査	180	159	0	0	60	110	170	—	内、外、整外、リウ、腎、高血圧内科、乳外、婦、泌、皮、放、緩和ケア、リハ、内分泌外科、漢方外来 ・急性期医療機関からの転院患者を受入れ、長期療養を有する高齢者が多い。 ・緩和ケア、人工透析を主としている。 ・外科、麻酔科、乳腺外科の常勤医師がおり、手術もしている。 ・婦人科、リウマチ、漢方等の外来も開設。	・地域医療の変化を見据え、回復期及び緩和ケアにおける入院医療体制の維持と在宅機能の強化を見据えた医療体制を確保。 ・入所や在宅機能をもつ福祉施設との診療連携を維持するため、医療提供体制を維持。 ・医療資源の状況を踏まえ、専門的分野での一部急性期医療（外科、乳腺外科、麻酔科）の整備、拡充も検討。
			2025 (R7) 見込			0	0	60	110	170	0		
20	医療法人遠山病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	70	70	0	18	16	36	70	—	内・呼・循・糖・外・胃外・整・皮・婦 ・地域密着型病院として、訪問診療、健診・人間ドックから二次救急、急性期の医療一般病床及び長期療養に対応した医療療養病床・介護医療院を持ち地域医療を行っている。近年は急性期病院からのポストアキュートとしての立場が色濃くなってきている。また、在宅や介護施設からのサブアキュートも年々増加している。 ・法人内に多様な介護事業を持ち、退院後の自宅療養にも対応している。今後は、法人の訪問診療・訪問看護・訪問介護・通所リハ・居宅など在宅分野との連携を強化し、外来から入院及び退院後に適宜求められる医療介護を提供していきたい。	・急性期機能と共に地域で不足すると見込まれる回復期機能（地域包括ケア病棟）を担う。 ・令和7年度までに、当院の病床機能を検討し、盛岡区域の病床数の適正化のため、病床削減し、急性期及び地域包括ケア病床を主軸として地域医療の中で地域の要望に沿った医療を提供できる医療機関を目指す。
			2025 (R7) 見込			0	15	45	0	60	0		
21	高松病院	救急告示 ／ 二次救急	2024 (R6) 調査	95	83	0	40	0	55	95	—	内・外・脳内・麻・リハ ～地域において「包括的な医療（治療→在宅復帰支援→訪問診療）」を提供する～ ・患者構成や地域需要、病床機能計画の観点を基に、周辺地域の住民・介護施設等より軽症から軽症急性期（サブアキュート）の患者を受け入れる。 ・一派病床の他、療養病床を有している事で、周辺医療機関からの受け皿として機能している。 ※ 長期療養並びに在宅復帰、看取りの支援まで ・在宅専任の医師、看護師、事務により24時間体制の訪問診療を提供している。	・在宅医療並びにリハビリ機能の充実化 ・患者構成や地域需要、病床機能計画の観点を基に、病床構成の再編を検討する（より地域で求められる機能への転換と体制強化へ向ける）
			2025 (R7) 見込			0	40	0	55	95	0		
22	いわてリハビリテーションセンター		2024 (R6) 調査	100	100	0	0	100	0	100	—	リハ、脳内、脳外、整外 ・常勤医師6名中4名がリハビリテーション科専門医有資格者であり、岩手県の回復期リハビリテーション病棟の専門的役割を担っている。 ・退院患者を対象とし、外来リハビリの他、訪問リハビリ、訪問看護及び通所リハビリを実施し他院後のフォローアップも実施している。	・回復期リハビリテーション病棟を中心として運営していくが、今後、必要に応じて障害者病棟についても検討していく。
			2025 (R7) 見込			0	0	100	0	100	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可 病床	病床機能							診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性	
				最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院				
23	八幡平市立病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	60	52	0	0	60	0	60	—	内、外、小、整、 リウ	・ 岩手県地域医療構想を踏まえ、地域包括ケア病床を継続し回復期と在宅医療の推進に向けた役割を担う。 ・ 急性期から回復期へ切れ目のない医療を提供するため、急性期患者が多い県立中央病院などと連携している。 ・ 在宅療養者支援のため、訪問診療、訪問看護を実施。 ・ 救急告示病院として、休日、時間外を含め救急搬送を受け入れ。	・ 圏域には急性期の大規模病院が集積しているため、手術後の経過観察の受け皿となる病院施設の体制が必要。その後方支援として、回復期の紹介患者の受け入れられる。 ・ 地域の医療ニーズに対応するため、専門外来の充実と在宅療養者の支援体制の強化により、地域完結型医療を目指す。
			2025 (R7) 見込			0	0	60	0	60	0			
24	荻野病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	58	55	0	0	58	0	58	—	内、リハ	・ 外来では、地域のみならず気軽に相談できる「かかりつけ医」を目指しています。 ・ 入院病床では急性期を脱した回復期のリハビリを中心に行っています。	・ まずは進む超高齢化社会に向けて、障害をお持ちの患者さんや高齢の患者さんの自立度をアップするお手伝いに尽力します。
			2025 (R7) 見込			0	0	58	0	58	0			
25	医療法人社団恵仁会 三愛病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	52	41	0	0	52	0	52	—	内、循内、呼内、アレ、消・肝内、糖・代、血内、腎内、泌(腎臓、透析、性感染症)、心外	・ 透析用監視装置143台を有し、日中・中間・夜間の3クール体制で約450人の患者さんが、週3回程度通院され(1日約220人)血液透析を受けている。 ・ 透析患者の多くは合併症を抱えていることから、循環器内科や心臓血管外科を含む11の診療科で対応している。 ・ 腎臓病患者及びその家族等を対象に腎臓病教室を定期的に開催し、腎代替療法選択について情報提供している。 ・ 高度急性期治療後の回復期の患者受入れ、地域の医療機関との連携、介護・福祉施設等への退院支援を行っている。	・ 現在の役割を引き続き担っていく。
			2025 (R7) 見込			0	0	52	0	52	0			
26	医療法人共生会松園第二病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	89	82	0	0	59	30	89	—	内、消内、脳内、循内、糖尿病・内分泌内科、呼内、整外、リウ	・ 松園地区の地域医療を支えている。 ・ 複数の看護学校の実習施設として提供している。 ・ 日帰り人間ドック・生活習慣病予防健診など予防医療にも力を入れている。 ・ 地域在宅医療(訪問診、訪問看護、訪問リハビリ)を提供している。 ・ 救急指定病院	労働人口の減少により、医療機関での医療提供が不足することが懸念される。増加する在宅でのみとりに対応していく体制を構築。
			2025 (R7) 見込			0	0	59	30	89	0			

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)		病床機能						診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性
			許可	最大使用病床	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	介護医療院			
27	国民健康保険葛巻病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	60	39	0	0	60	0	60	—	内、外、小、産婦、眼 ・ 町内で唯一の医療機関であり、一般病床と地域包括ケア病床における回復期機能を有している。 ・ 救急告示病院として、365日24時間初期救急対応を行っている。 ・ 在宅療養支援病院として、往診や訪問診療、訪問看護、訪問リハビリを行っている。 ・ 生活習慣病予防等の疾病予防として、医師による町の健康講話など町の保健活動に取組んでいる。	・ 回復期機能の維持・充実のため地域包括ケア病床の増床を含む運用の検討。 ・ 町と連携した人材確保と積極的な人材育成支援。 ・ 健康寿命延伸を図るため、町の保険事業との連携強化。 ・ 地域包括ケアシステムの拠点病院として、町や関係機関との更なる連携を図る。
			2025 (R7) 見込			0	0	60	0	60	0		
28	鶯宿温泉病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	88	92	0	0	0	92	92	—	内、外、整外、リウ、リハ、消、循、麻 ・ 救急告示病院に認定され、地域の二次救急病院（当番病院）の役割を担っている。 ・ また近隣介護施設等の協力病院を担い救急の受入れ及び診療所等の後方支援（入院受入れ）を担当。 ・ 整形外科及び麻酔科並びにリハビリテーション科領域を中心とした医療提供を行っている。 ・ 入院はリハビリや人工呼吸器等の対応も可能。長期に渡る療養や介護を目的とした患者の受入れ。 ・ 地域包括ケア病床（14床）によりポスト及びサブアキュートの回復期機能を担っている。 ・ 療養型介護老人保健施設を併設。	・ 引き続き、地域に根ざした医療提供とリハビリテーションや医療依存度の高い入院患者への対応し、地域住民や介護施設等のサブアキュートを担っていく。 ・ 在宅医療の拡充を推進し、限られた病床の効率化を図る。
			2025 (R7) 見込			0	0	0	88	88	0		
29	医療法人社団愛和会 盛岡南病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	164	169	0	0	0	164	164	—	内、外、整形、リハ ・ 県内最大規模の164床の医療療養病床を有し、岩手県全域からの入院要請にも対応 ・ リハビリにも力を入れ、在宅復帰率の向上を目指しつつ、市内の介護・福祉施設や個人在宅への訪問診療を行っている	・ ポストアキュート患者の受入を従来通り、断らず受け入れ、サブアキュート患者（自院の訪問診療患者、近隣の介護施設の利用者）の受入、在宅復帰を強化していく。 ・ 在宅復帰強化の為に、リハビリや摂食機能療法を強化していく。
			2025 (R7) 見込			0	0	0	164	164	0		
30	医療法人仁妙光会 渋民中央病院	救急告示 ／	2024 (R6) 調査	117	117	0	0	0	117	117	—	内、外、整形 ・ 急性期以後の慢性期疾患の治療と療養を目的とした患者の受入れ。病状安定期において医学的管理のもと長期に渡る療養や介護を目的とした患者の受入れ。地域住民の「かかりつけ医」としての役割を担っている。	・ 急性期以後の慢性期疾患の治療と療養を目的とした患者の受入れ。病状安定期において医学的管理のもと長期に渡る療養や介護を目的とした患者様の受入れ。地域住民の「かかりつけ医」としての役割を担っていく。
			2025 (R7) 見込			0	0	0	117	117	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可	最大 使用 病床	病床機能					診療科目	病院の役割・特色	2025年を見据えた今後の方向性	
					高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院
31	みちのく療育園メ ディカルセンター		2024 (R6) 調査	60	57	0	0	0	58	58	—	内、精、小、耳、 リハ、歯、整 ・ 全域の重症心身障害者と発達障害児（者）のための福祉と医療、療育の重要な拠点施設として関連する保健、医療、福祉施設と連帯して障がいのある人々の支援を総合的に実践。	・ 施設を利用する障がい児（者）は、入所、通所（入院、外来診療）ともに高齢化の傾向にあるので、各年代に相応した施設の整備と診療内容を物、人員共に拡充してゆく必要がある。ハード面、ソフト面共に計画的に充実して行きたい。
			2025 (R7) 見込			0	0	0	60	60	0		
32	岩手県立療育セン ター		2024 (R6) 調査	60	44	0	0	0	44	44	—	小、整形、児 精、神内、泌、 眼、耳、歯、リハ ・ 平成30年1月に矢巾町へ新築移転となり、超重症児（者）等の受入れに対応したハード・ソフト面での体制整備及び診療科の増設による診療体制の充実、隣接する県立となん支援学校との連携について機能強化を図った。医療型障害児入所施設、児童発達支援センター、児童発達支援・生活介護事業所、岩手県発達障がい者支援センター、障害者支援施設を併設した多機能型の施設であり岩手県の障がい児（者）療育の中核施設である。	・ 基本的には現在と変更はないが、新築移転に伴う設備及び機能の充実に伴い、本県の障がい児（者）療育の中核機能を担う施設として、より高度な小児医療連携体制と重症心身障がい児（者）への支援体制を目指すことから、それぞれの機能が総合的・効率的に連携が図られるように各種委員会等により運営体制の安定に向けた検討を行っていく。
			2025 (R7) 見込			0	0	0	48	48	0		
合計又は平均		21 ／ 11	2024 (R6) 調査	5,233	4,681	1,189	1,361	1,192	1,188	4,930	0	稼働病床に対する利用率及び平均在院日数については、みちのく療育園メディカルセンター及び岩手療育センターを除く	—
			2025 (R7) 見込			1,201	1,386	1,232	1,154	4,973	0		
			増減			12	25	40	-34	43	0		